

黒田如水の「水五訓」

水関連で気になったサイトからも抜粋してみました。

◆高松市の建設業大洋建設工業会長植田郁男は

混沌とした矛盾だらけの現代を、水の心を心として生きていくことの重要性を訴えておられる。

水の心を心として生きる、それは水と共鳴しながら、自然と共鳴しながら生きていくことだ。そのためには、身の回りを含めて随所に自然が息づいていなければならない。自然が病んでしまってはならない。水が病んだ状態のままでは駄目なのだ。伏流水を含めて水の循環が正常でなければならない。

つまり、「人間の社会は自由自在、自律の精神が根本でなければなりません。それには心が土台であります。豊かな社会とは我執を捨ててものにとらわれない水にも似たる心で生きる姿にあるのではないだろうか」

◆「雨あられ雪や氷とへだつとも、とくれば同じ谷川の水」 (一休禪師)

◆「本心は水の如くひとところに溜まらず妄信は氷の如くにて手も顔も洗われず」 (沢庵和尚)

◆「大海に雑魚は踊る、だが誰が知ろう百尺下の水の心を」 (宮本武蔵)

◆黒田如水について……水五訓

北近江は豊臣秀吉出世の地である

この秀吉が天下人となったのは秀吉の名参謀「黒田官兵衛」の力である。

官兵衛は、信長に反旗をひるがえした友人荒木攝津守を、有岡城に説得に入ったまま1年間(滝川一益が城を落とすまで)牢獄に幽閉され瀕死の病人となったが秀吉への忠誠心変わらず、節を守り通した意志堅剛の武士である。

本能寺の変の時、秀吉は備中高松城攻めの最中であつたが、急ぎ大返しのうへ明智光秀を討つ弔い合戦を仕掛け秀吉を天下取りにしたのは策士黒田官兵衛(このとき36歳)の力である。

黒田官兵衛の祖は佐々木源氏の庶流で代々(滋賀県伊香郡)北近江黒田地区に居住していた。黒田高政の代に足利10代將軍義種(よしたね)の怒りにふれ黒田地区を去る。

その子重隆の時代に播州姫路(兵庫県)に居住している。このころ黒田家家伝の効験ある「目薬」を売り出しており、これが薬効著しく大人気となり財を成したといわれる。

重隆の一子甚四郎満隆の時代御着の小寺家に仕えた。満隆は明石城主の娘と結婚、主席家老として姫路城で仕え、後年官兵衛が秀吉に仕えるまで小寺姓を名乗っていた。

天文15年満隆の子万吉丸(後の如水入道)が生まれている。万吉丸は17歳で官兵衛孝高と改め、23歳の時夫人櫛橋が男児(後の黒田長政)を出生している。

天正13年(1585)の四国征伐にも参戦。NHK 巧名が辻の土佐 長我可部氏とも戦っている

天正14年(1586)には九州征伐に先立って軍奉行として九州に渡り、豊前国の諸城を攻めている。

天正15年(1587)7月には豊前国京都(みやこ)・築城・仲津・上毛・下毛・宇佐の6郡を与えられて中津12万石に封ぜられる。その後筑前国52万石。

今回旅したとき話題にならなかったが大分・福岡に関係があつたという史実をネットで知り検索開始。

姫路の広峰神社にも関係あり(以前住んでいた)のでますます気になった戦国武将となった。

★慶長六年(1601年)

この年、博多の西方の福崎の地を黒田氏発展の地・備前福岡

(現・岡山県邑久郡長船町福岡)に因んで福岡と改称

★慶長九年(1604年)

3月 黒田如水、伏見の藩邸にて世を去る。享年59歳

黒田如水(1546~1604)なる人物は、生まれて来るのがもう少し早ければ、天下はこの人が取っただろうと、言われる程の『知謀の策士』で秀吉天下取りの軍師として、無くてはならない武将黒田官兵衛孝高(小寺孝高)のちの**黒田 如水の水五訓**なる人生訓(知謀・・・知恵のあるはかりごと)

1、自ずから活動して他を動かしむるは水なり。
2、常に己の進路を求めて止まらざるは水なり。
3、障害に逢い厳しく精力を倍加するものは水なり。
4、水から潔くして他の汚濁を洗い清濁に入るのは水なり。
5、洋々として大海を満たし発しては雲と変じ霧と化し凝っては玲瓏たる鏡となり、しかもその性を失わざるは水なり。
(黒田如水)

自分から実行する
淀んだ水は腐る
エネルギーは障害に比例して大きくなる
泥水の汚れは泥水で洗う
人間の心はよく変わるが、その本性に変わりはない

水の部分を「人」に置き換えたら・・・人の生き方が見えてくる。

ある機械メーカーでは、社是・社訓の変わりにこの水五訓を用いているという。

◆よく似た老子教えの一つに“上善は水の如し(上善如水)”というのがある。
「上善」とは、最も理想的な生き方のことで、“最も理想的な生き方は水のあり方のような生き方である”との教えという。

1. 水は入れる器に従って、実に柔軟にその姿を丸くしたり四角くしたりしてあわせる。
2. 水は人が好まない低い位置へ低い位置へと流れていく。
3. 水はものすごいエネルギーを秘めているということである。洪水ともなれば、木や家も流してしまう。

つまり、水の持つ大きな三つの要素 **柔軟性・謙虚・秘めた力**を身につけることの重要性を説いたもの。
「柔軟に心を養い、人の嫌がる低いところにさえも身を置くことができる謙虚さを持ち、時に応じては何者にも屈さない秘めた力を蓄えなさい」という教えか。

水の故事

◆飲水思源(いんすいしげん)

水を飲んで“ああ美味かった”とその流れの水源に思いをはせるように、いつも物事の根本を忘れぬこと。今の幸いを考え、恩人に感謝すること。“水を飲みて源を知る”ともいう。